博士論文要旨

ヨーロッパにおける日本のパブリック・ディプロマシーの研究：国際交流基金の役割と可能性

立命館大学大学院国際関係研究科
国際関係学専攻博士課程後期課程
ガジェヴァ　ナデジュダ　ペトロヴァ
GADJEVA Nadejda Petrova

これまで日本は、ヨーロッパでの日本の文化的魅力と日欧の関係の向上のために、外務省広報文化外交戦略課や国際交流基金などの組織および機関を通じて、様々なパブリック・ディプロマシー活動を行っている。しかしながら、ヨーロッパでの日本のソフトパワーは未だに十分であるとは言えない。その本質的理由は、日本文化を宣伝する機関の間での連携がとれていないことにある。多くの公的および私的な行為主体は、特に連携や個々のプロジェクトを推進するために中心となる機関や共通の戦略なしに、個別での活動を続けている。

そこで本研究は、官民連携を通じたヨーロッパにおける日本のパブリック・ディプロマシーのための統合的なアプローチについて検討するものである。国際交流基金が、日本の文化的魅力を発信する様々な公的・民間の主体や機関による官民連携のプラットフォームを促進する、日本のパブリック・ディプロマシーの中心的な役割を果たす主体となる可能性を明らかにする。

本研究では、特にフランスとブルガリアにおける日本文化事業に焦点を当てる。国際交流基金の役割や 1970 年代から 2018 年までに国際交流基金が単独あるいは日本やフランス、ブルガリアの地域の公的・民間の主体と協力して実施した活動について分析する。両国での国際交流基金の活動を比較し、評価できる点と課題点を明らかにする。また、この研究は将来的に官民連携を通じて国際交流基金と協力できる可能性がある、日本とフランス、ブルガリアの地域の重要な主体を見出す。加えて、フランスとブルガリアでのインタビューを通じて日本のイメージや日本への期待を調査する。この調査により、日本のソフトパワーの中で不足している要素を明らかにする。そして、本研究の成果を基に、フランスおよびブルガリアでの国際交流基金によって促進される官民連携プラットフォームを通じた統合的なパブリック・ディプロマシーのための政策提言を行う。